

「つぶらな瞳の小型犬は口臭がひどい!？」

歯科口腔外科医師 石田 昂

我々にとって大事な「歯」。それは犬にとっても同じことです。犬は虫歯になるのか？歯周病になるのか？など疑問に思った方へ犬の歯を守る対策をご紹介します。

まず、犬でも虫歯はありますが、かなり珍しく、犬に多いのは虫歯よりも歯周病です。これは食べカスがついたまま放置されると細菌の出す毒素により歯茎が炎症を起こし、やせていきます。犬も毎日ごはんを食べますので、これを繰り返すとついには歯が抜け落ちてしまいます。歯周病原菌はすぐ隣の根っこに波及しますのであっという間に多くの歯がぐらぐら揺れ出し、強い口臭を放つようになります。

また、歯周病は室内飼育の小型犬に多い傾向にあるという報告があります。小型犬に歯周病が多いのかはおそらく人の歯周病菌が伝染しているのではないかと推測されます。証明されてはいませんが、小型の室内犬の場合は人が口移しで食物を与えたりする機会が多く、人間の歯周病菌感染の危険が多いと考えられます。治療は口腔ケアと歯石の除去と揺れる歯の抜歯ですが進行を止めるだけで元に戻す事はできません。犬の場合、体動が著しいので全身麻酔下で歯石の除去、抜歯を行うことがほとんどです。

つまり、予防策としては人間と同じく、犬も毎日口腔ケアが必要であり、ごはんの口移しは控えること。また、ごはんの口移しはしないが、犬とキスはするという飼い主さんは自分自身の口腔内環境を整えることです。残念ながら、愛犬の口腔内は獣医さんの担当ですが、飼い主さんの口腔内は歯科医が担当致しますので、ご自身のお口がご心配な方、気になる方は当科歯科口腔外科へお問い合わせください。